

被災農業施設は関東甲信豪雪並みの支援を 武田参院議員などが主張している支援スキーム

今冬の豪雪で雪国の農業者は作業所、農業用ハウスなどで大きな被害をこうむりました。先日、日本共産党の武田良介参院議員が上越市の被害状況を視察した際、農業者から、「このままではやっていけない。何らかの救済措置を」と訴えられました。武田参院議員は、「2014年（平成26年）の関東甲信豪雪の際の支援スキームの適用を求める」とのべていましたが、これは重要です。

で保証されました。③県・市町村負担分は、7〜8割が交付税措置されました。今回もぜひこうした支援を実現させたいものです。

写真は今冬の豪雪で倒壊した吉川区西野島の農業用ハウス。ハウスの中はブドウの木、味野菜などの野菜が植わっていました。25日の午前、私が撮影しました。

谷浜・桑取地区を視察

関東甲信豪雪の際の支援スキームは、①被災した農業用ハウスの撤去費用は、全額支援対象となりました。②再建費用も、国と県・市町村で9割ま

日本共産党議員団は25日、桑取・谷浜地域の豪雪の状況を視察しました。いまから30数年前の3年連続豪雪でも止まることなかった県道がなぜ3日間も交通止めとなったのか、どか雪の中で要援護世帯や高齢世帯などではどういった暮らしになっていたのかなどを目で見て、話も聴く、それが目的です。

最初に訪ねた家では、病院から退院して間もないお父さんが対応してくださいました。「自分では屋根の雪下ろしはできないので助けてもらいたかったが、要援護の対象外ということだめだった。仕方なく、無理をして雪下ろしをした」。切ない訴えでした。

2軒目では、「県道通行止めの間、除雪機のカンリンも買えず困った」などの話を聴きました。

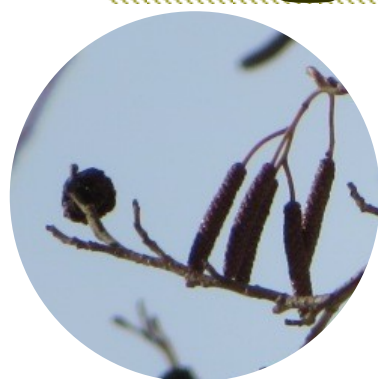
3軒目でも、「市道が開いても県道



が通行止めでは」と苦情を言われ、この地域のたいへんだった状況を議員や行政の幹部からよく見てほしいと訴えられました。

4軒目では、近くの要援護世帯のボイラー、明かり対応で苦労された話をお聴きしました。

最後に、谷浜公園の太陽光発電施設が壊れた現場を見ました。パネルなどが雪の重みで曲がったり、割れたりしていました。除雪機を使っても雪を飛ばしきれない施設配置となってい



【ハンノキ】再掲。カバノキ科の落葉高木。漢字で「榛の木」と書きます。樹高は4〜20m。花の時期は11月〜4月。葉に先だって単性花をつけます。雌雄同株。実は松かさ状で、10月ごろから翌年春まで残ります。花と実が長期間、一緒に見られるというのは面白いですね。花言葉は「忍耐」「豪勇」。

UPZ研究会が新安全協 定第一次案を発表

柏崎刈羽原子力発電所30km圏内（UPZ）議員研究会が23日、見附市で行われ、UPZ圏内自治体新安全協定第一次案が議論されました。

第一次案は新潟県と立地自治体である柏崎市、刈羽村をのぞく県内28市町村が東京電力と結んでいる現行の安全協定書をベースに、「再稼働事前了解権」「設備の新增設等に関わる事前了解」「適切な措置要求」などを盛り込むことを基本方針としています。

会では、「事前説明」「意見交換」と「事前了解」を一体とした条文にするかどうか、事前了解の判断をするにあたっては、「住民の声を聴くこと」を条文に入れるかどうか、などをめぐって活発な議論を行いました。



はしづめ法一の 活動レポート

No.1996 2021.1.31

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い 第六四三回 いつもハツラツ

先日、吉川区の中山間地に住むFさんを訪ねました。一三年前、漬け菜汁の作り方を教えていただいた方です。

玄関先で声をかけると、逆光で私の顔がよく見えなかったのか、Fさんは最初、「どなたですか」といった表情をされました。「橋爪です」と名乗ると、「さあさ、入ってください」。前庭も家の後ろもよく除雪されていて、家の中は思っていたよりも明るくなっています。

茶の間に通してもらい、「コタツに足を入れたところで、Fさんに言われました。「きょうもお母さんの、読ましてもらったでね。おれ、テレビは見るでも好きでないが、目、離すと忘れるすけね……。でも文章は何回も読まれる」

Fさんは、いま九一歳。長年にわたり、付き合いをさせていただいていますが、開口一番、こんなふう言われると、うれいいですね。

久しぶりに会ったFさんはとても元気そうでした。「顔の色つや、いいねかね。九〇を超えているとはとても思わんねえね」

「みなさん、そう言ってくんなる。やせていて、目は悪いけど、おかげ様で他はとも悪いとこないが」

「体重、何キログラムが」

「そつだこてね、三八キログラムかな」

「そんがに少ないがかね。おらちのばちや、小さいけど四〇キログラムあるでね」

髪は染めて真っ黒、顔色もいいとあって、Fさんは八〇代前半かと思うほど若く見えました。

コタツにはストーブの前から省エネ温風パイプが設置されていて、コタツの内部はあっちうちでした。足を引っ込め、お茶と皮をむいたクリをこ馳走になりながら、話をしました。

「そう言えば、ずっと前に漬け菜汁のこと

教えてくんなったこてね。いまも何か漬けてなるが」

「いま、いろつばす悪くなったでも白菜の漬けたのがある。塩吹き昆布をはさんで漬けるの」

「そりや、うまそつだね」

「コンニャクも作ってる」

「えらいもんだね、おらちのばちやも、いまはダメだでも、九二歳頃までコンニャク作ったり、赤飯作ってた」

食べ物の話はどこまでも続きます。

Fさんは、十数年前にお連れ合いを亡くされてから独り暮らしですが、いまも山間部の集落からHさんが時どき、車に乗せてもらい、やってきて、二時間くらい一緒に過ごしていかれるそうです。

「年とったら、後片付け、やになつたでも、人が来るとなれば片付ける。だから人が来てくんなるよつれつ」

「そりや、いいね」

「隣のしょもよく来てくんなるすけ、助かるわね。人様に助けてもらって生きている。感謝、感謝です」

Fさんは家において人を待つだけでなく、外へも積極的に出かけます。

「Sさんとこへ、ガス代と灯油代、ひと月に一回払いに行き、そこで一円玉までかんじよしてくんがです」

驚きましたね。Fさんは、わざわざ原之町までバスに乗って出かけ、支払いをされていたのです。集金に来てもらえばいいのにと思われるでしょう。でもFさんは頭や体の動きを活性化させよう意識して生活されているのです。

お連れ合いに続いて、息子さんまで亡くされたFさんですが、いつもハツラツとされています。茶の間から見えた屋根下の雪のことを話題にしたら、「少しは動いて、スコップでつつつけばいいがでもね」です。ずっと思いました。

ホワイトボードを使った会議の進め方学ぶ

21日、ホワイトボードを使って、各議員の意見や提案などを可視化しながら集め、みんなの英知が活かされる会議の進め方を学びました。

「議会はこれからどんなことにチャレンジしますか」「市民参加です」「というと?」「市民の切実な願いを市政に反映させていくことが必要だから」「もう少し詳しく教えていただけませんか」の勉強会では、同じグループに入った議員の人柄や考え方もより深く知ることができました。講師は上越市在住の吉崎利生さんでした。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月20日(水)	1月27日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.040	0.040
新井消防署	0.057	0.057
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.063	0.067
東頸消防署	0.040	0.057
名立分遣所	0.047	0.057
高士分遣所	0.053	0.063

聴信寺の掲示板



ずっと注目している直江津の聴信寺の掲示板です。今回は東本願寺の言葉なので、「私は正しい争いの根はここにある」「私は正しい」それだけだとトランプ前米大統領と同じです。相手の主張を聴き、話し合いにつなげていく努力が大事ですね。

春よ来い 第六四三回 いつもハツラツ

先日、吉川区の中山間地に住むFさんを訪ねました。一三年前、漬け菜汁の作り方を教えていただいた方です。

玄関先で声をかけると、逆光で私の顔がよく見えなかったのか、Fさんは最初、「どなたですか」といった表情をされました。「橋爪です」と名乗ると、「さあさ、入ってください」。前庭も家の後ろもよく除雪されていて、家の中は思っていたよりも明るくなっていました。

茶の間に通してもらい、「コタツに足を入れたところで、Fさんに言われました。「きょうもお母さんの、読ましてもらったでね。おれ、テレビは見るでも好きでないが、目、離すと忘れるすけね……。でも文章は何回も読まれる」

Fさんは、いま九一歳。長年にわたり、付き合いをさせていただいていますが、開口一番、こんなふう言われると、うれいいですね。

久しぶりに会ったFさんはとても元気そうでした。「顔の色つや、いいねかね。九〇を超えているとはとても思わんねえね」

「みなさん、そう言ってくんなる。やせていて、目は悪いけど、おかげ様で他はごも悪いとこないが」

「体重、何キログラムが」

「そつだこてね、三八キログラムかな」

「そんがに少ないがかね。おらちのばちや、小さいけど四〇キログラムあるでね」

髪は染めて真っ黒、顔色もいいとあって、Fさんは八〇代前半かと思うほど若く見えました。

コタツにはストーブの前から省エネ温風パイプが設置されていて、コタツの内部はあちちで足が温かかった。足を引っ込め、お茶と皮をむいたクリを馳走になりながら、話をしました。

「そう言えば、ずっと前に漬け菜汁のこと

教えてくんなったこてね。いまも何か漬けてなるが」

「いま、いろつばす悪くなったでも白菜の漬けたのがある。塩吹き昆布をはさんで漬けるの」

「そりや、うまそつだね」

「コンニャクも作ってる」

「えらいもんだね、おらちのばちやも、いまはダメだでも、九二歳頃までコンニャク作ったり、赤飯作ってた」

食べ物の話はどこまでも続きます。

Fさんは、十数年前にお連れ合いを亡くされてから独り暮らしですが、いまも山間部の集落からHさんが時どき、車に乗せてもらい、やってきて、二時間くらい一緒に過ごしていかれるそうです。

「年とったら、後片付け、やになつたでも、人が来るとなれば片付ける。だから人が来てくんなるよつれつ」

「そりや、いいね」

「隣のしょもよく来てくんなるすけ、助かるわね。人様に助けてもらって生きている。感謝、感謝です」

Fさんは家において人を待つだけでなく、外へも積極的に出かけます。

「Sさんとこへ、ガス代と灯油代、ひと月に一回払いに行き、そこで一円玉までかんじよしてくんがです」

驚きましたね。Fさんは、わざわざ原之

町までバスに乗って出かけ、支払いをされたのです。集金に来てもらえばいいの

にと思われるでしょう。でもFさんは頭や体の動きを活性化させようと意識して生活されているのです。

お連れ合いに続いて、息子さんまで亡く

されたFさんですが、いつもハツラツとされています。茶の間から見えた屋根下の雪

のことを話題にしたら、「少しは動いて、スコップでつつけばいいがでもね」です。すつと思いました。

ホワイトボードを使った会議の進め方学ぶ

21日、ホワイトボードを使って、各議員の意見や提案などを可視化しながら集め、みんなの英知が活かされる会議の進め方を学びました。

「議会はこれからどんなことにチャレンジしますか」「市民参加です」「というと?」「市民の切実な願いを市政に反映させていくことが必要だから」「もう少し詳しく教えていただけませんか」の勉強会では、同じグループに入った議員の人柄や考え方もより深く知ることができました。講師は上越市在住の吉崎利生さんでした。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	1月20日(水)	1月27日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.040	0.040
新井消防署	0.057	0.057
頸北消防署	0.050	0.053
頸南消防署	0.063	0.067
東頸消防署	0.040	0.057
名立分遣所	0.047	0.057
高士分遣所	0.053	0.063

田麦川の冬景色



板山から大平に至る道から田麦川が見えます。2つのスノーシェッド(道路に屋根をつけた雪崩対策施設)の間あたりから川をのぞき込むと写真のような景色になります。左側が上流、右側が下流です。夏には、川沿いにコシジシモツケソウがピンクの花を咲かせます。